

学力向上推進計画

1 目 標

「確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成」
～わかる授業の推進と学ぶ意欲の向上を図る取組を通して～

2 基本方針

学力の向上の取組の重点を「授業改善」におき、幼・小・中・高・特支が連携し、系
することで、子ども達に明確な学力を育む事ができると考える。以下の2点を基に授業
改善を推進し学力向上を図る。

- 1 幼・小・中・高・特支が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。
- 2 「授業改善6つの方策」を県全体で共通実践する。

(推進期間H 29～H 31 学力向上推進プロジェクト取組の重点より)

3 推進の視点

(授業改善6つの方策)

(1) めざす授業像の共有

これから必要とされる資質・能力を育成するために、めざす授業像（他者と関わりなが
ら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業）を共有しめざす子どもの姿が実現でき
るよう学びを支援する授業を展開する。

(2) 教材研究の充実

授業改善を計画的・継続的に推進していくとともに、「学び続ける教師」として実践を積み上げ
授業力を高めていくためには、教師一人一人がカリキュラム・マネジメントを意識し、多様な教材
研究の方法を職員間で共有し、組織的に教材研究を進めていくことが重要である。

(3) 学力向上マネジメントの推進〈共有・浸透〉

全ての教職員が学力向上の具体的な到達目標を共有し取組を徹底、連動していくことで
実践意欲を高め学校全体で授業改善を推進し児童生徒の学力の向上を図る。

(4) 学習を支える力の育成

- ①規範意識・マナーの向上 ②学習環境の充実 ③読書活動の充実 ④家庭学習の習慣化
⑤生活リズムの確立 ⑥対話の充実 ⑦体験活動の充実

(5) 集団づくり・自主性を高める取組の充実

- ①支持的風土をつくる学級経営
②生徒指導の3つのポイントをいかした授業（自己存在感・共感的人間関係・自己決定の機会）
③学びに向かう集団づくりを進める学級活動及び児童会活動

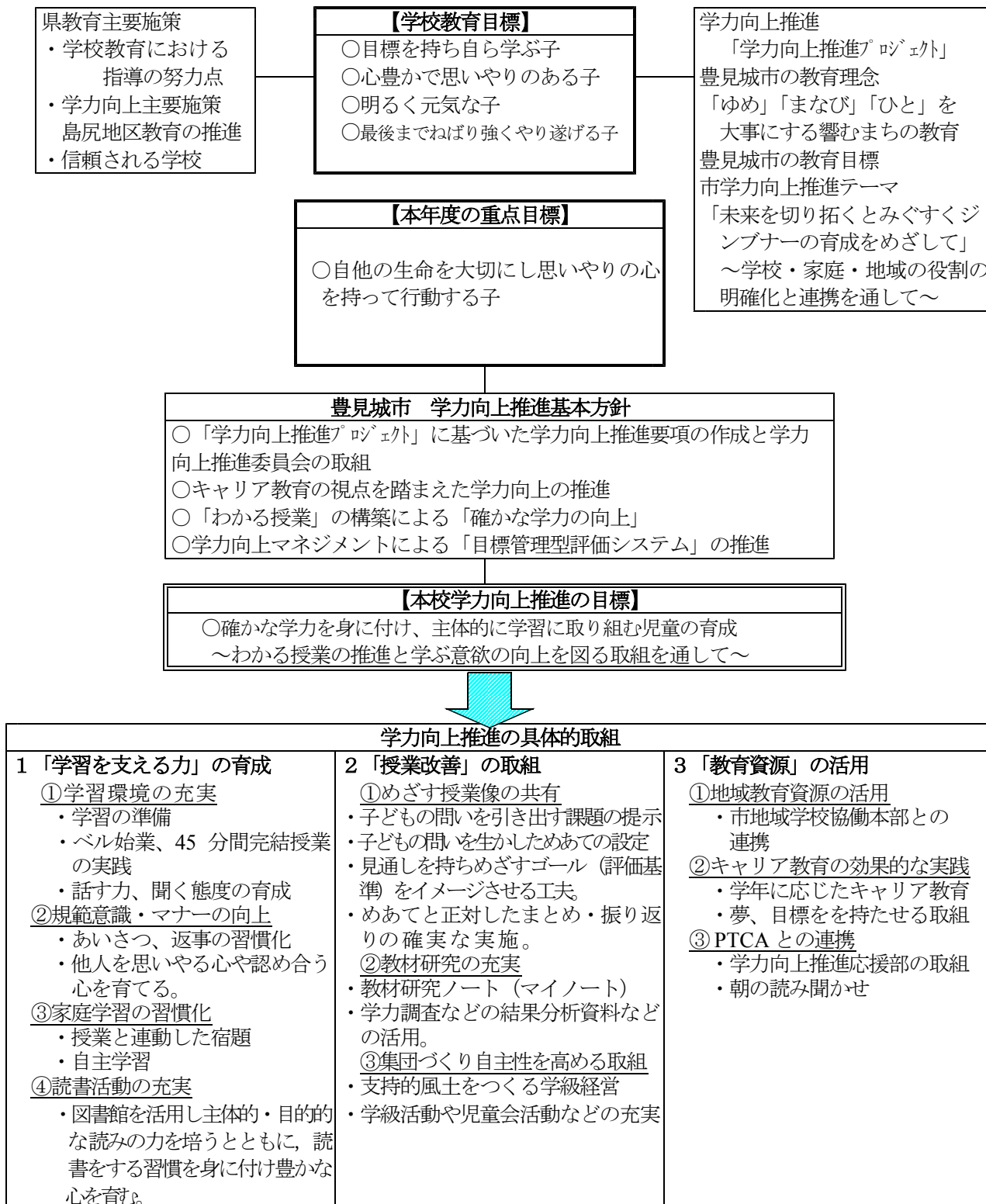
(6) 教育行政による効果的な支援体制の構築

学校における授業改善の取組の充実を図るためには、教育行政による効果的な学校支援
体制を構築する必要がある。教育行政を担う各機関はそれぞれの施策の浸透を図るととも
に学校現場を第一に考える直接的な学校支援を重視する。

4 取り組みの重点

- (1) 他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業。
- (2) 多様な教材研究の方法を職員間で共有した組織的な教材研究。
- (3) 授業と連動した家庭学習の推進。
- (4) 読書活動の推進。

5 全体推進計画



6. 年間活動計画

月		実 践 内 容	担 当
4	初旬	学力向上推進計画の検討	校長 教頭 学推部
		なないろ週間(全校統一学級指導) ～ (4/15)	全学年
	初旬	レディネスを揃える取組み	6学年
	中旬	目標の設定、各学年の具体的な取組み	学推部 全学年
		全国学力・学習状況調査 学力向上月間①(生活リズムの確立)	6学年 全学年
5	中旬	豊崎っ子生活カレンダーの実施①	全学年, 学推部
6		読書旬間	国語部
		学校説明会	校長 教頭 学推部
		学力定着度調査① Web (国・算)	3～5年
7		地域教育懇談会	校長 教頭 全学年
	中旬	夏休み前漢字力テスト	2～6年
		夏休み補習	
		学推・校内研修会(全国学習調査の分析、反省と今後の取組確認)	全学年
8		学推・校内研修会	全学年, 学推部
		なないろの日	全学年
9	初旬	学力向上月間②(基本的な生活リズム定着月間)	全学年
10		なないろの日 ～ 20日	全学年
		読書月間	国語部
		市教委学校計画訪問 (10/30)	校長・教頭・学推部
11	初旬	基本的な生活習慣についてのアンケート実施(児童・教師)②	生徒指導部
		学力到達調査② Web (国・算)	3～6年
	中旬	豊崎っ子生活カレンダーの実施②	全学年, 学推部
12		市学力調査	1～6学年
	中旬	冬休み前漢字まとめテスト	全学年
1		なないろの日(～8日)	全学年
		学推研修会(市学力調査・アンケート分析、今後の取組み)	全学年
		学力向上月間③(学習ステップアップ月間1月～3月)	
		島尻地区実践報告書・豊見城市実践報告書提出	学推主任
2	上旬	県学力到達度調査	3・4・5・6学年
		学力向上実践報告(保護者対象)	教務主任, 学推主任
3	初旬	年度末漢字テスト	全学年
	初旬	学年の総復習	全学年
		反省と評価・次年度計画(2月の計画会で計画、3月は確認)	各学年・学推主任
		全国学力・学習状況調査に向けての補習指導	5学年

